

令和5年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

団体名	特定非営利活動法人 あではで神奈川		
団体の属性	☑セルフヘルプグループ・当事者等		□ボランティアグループ等
	□市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	□一般助成	☑協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ 人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」～多様な形でのボランティア参加の可能性について～
助成事業名	人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動推進事業		
事業の目的	人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動推進		
事業概要	<p>①企画ミーティング 協働モデル事業構成員（あではで10名、アドバイザー：岸川先生（県立保健福祉大学）、社協ボランティアセンター職員2名）によるオンライン形式で開催しました。事業取り組みの意識共有を目的とし、前年度の活動の振り返りと成果を今年度の活動にどうつなげるかなど、話し合いました。</p> <p>②ワークショップ「自分らしく人とつながろう。人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動」をテーマに、ディスカッションを行いました。自分らしさ、好きなこと、自分では気づいていなかった得意なところを気づく体験をしました。</p> <p>③他社協ヒアリング 大和市社協、藤沢市社協を訪問し、取り組みを拝見、情報交換を行いました。</p> <p>④座談会 市町村社協ボランティアコーディネーターを対象に、そのままの自分には様々な力があるということに気づき、社会とつながる可能性を広げていくためにコーディネーターができることについて考えました。</p> <p>⑤冊子発行 活動のまとめの冊子を作成し、会員と社協へ配布しました。</p>		
成果や課題	<p>他社協との交流では、あではで神奈川のSHG活動について紹介、周知しました。当事者が自分の居場所を得て、そのままの自分を語ることで仲間をつくり、活動を続けることで自分らしい生き方を見つけていることです。また、他社協の取り組みについて知ることができ、とても励まされました。今後、それぞれの活動がつながり、より広まることを期待しました。</p> <p>3年間の協働事業を通して、SHG活動の一つ一つは小さな働きでも、会が存在することが神経発達症（発達障害）を持つ人にとってのみならず社会資源として大きな意味があると知りました。これまで漠然と活動してきたことを振り返り、今後も活動を続ける意欲をもつことができました。</p> <p>新しい活動に挑戦したことで、仲間のつながりに感謝し、また新しいつながりが増えました。企画などでは仲間の知られざる面を知ることができ、今後の活動が楽しみになりました。</p> <p>ボランティア活動は、特別なことではなく、まず自分を知り、自分が苦なくできること、少しでも頑張りたいと自然に思えることを仲間とともに活動し喜びを得て、自分らしい人生をつくることができるでしょう。時代の変化とともに、会が求められるものも変わっていくと思いますが、その都度丁寧に考え、あではでらしい役割を継続したいと考えています。</p>		
今後の展望	<p>現在約250家族の会員は、毎月積極的にいろいろな会に参加する人から、何年も参加はしないが、会の継続のために支えている人までつながり方は様々です。あではで神奈川のSHG活動では、そのひとりひとりが会を支えるボランティア活動を行っています。会員がそれぞれ自分らしく会につながり、より自由に自分らしい生き方を発見していくことを願います。</p>		
活動の様子が分かる画像 2枚程度添付	<p>ワークショップの様子</p> 		<p>座談会の様子</p> 

